

特集

近未来の日本経済は どのように変化していくのか

中小企業診断士 久保 國忠

はじめに

現在の日本経済の感動のない時代をもじって菅(首相)動のない時代という人もいますが、思いつきを連発する政権から、しっかりしたリーダーの下に経済の立て直しを図る政権へと変わることを望んでいる読者の皆様も多いのではないかと思います。如何でしょうか。

1 日本経済の現状 (2010年の概略)

まず日本経済のプロフィールを掴んでおきたいと思います。国内総生産で中国に抜かれたといっても名実ともに米国に次ぐ経済大国であることには変わりありません。(以下、日本国勢図会2011/12のデータを基にまとめています)

(1) 国土面積	37万3,000km ² (米国の約1/25)
(2) 人口	1億2,800万人 (米国の約40%)

【図1】日本の人口ピラミッド

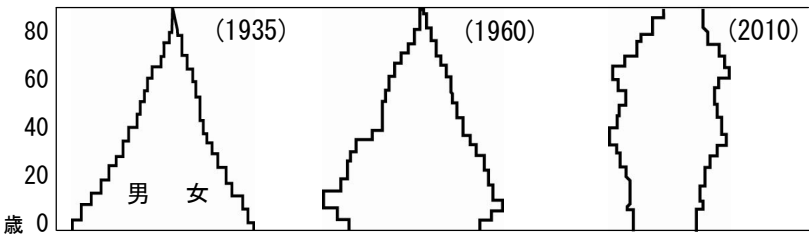


図1は日本の人口ピラミッドを示しています。縦軸は年齢（0歳から80歳以上）を示し、横軸は性別（男、女）を示しています。1935年、1960年、2010年の3つのピラミッドが示されています。1935年は典型的なピラミッド型で若年層が非常に多い。1960年は若年層が減少し、中年層が増加している。2010年は逆ピラミッド型に近づき、高齢化が進んでいる。

近未来の日本経済はどのように変化していくのか

(3) 労働力人口	6,720万人
(4) 就業者数	6,256万人
(5) 就業者割合	①第1次産業 4% ②第2次産業 25% ③第3次産業 71% 第一次産業が減りつつある(過疎化の現象と食糧輸入増大、輸入食糧の価格高騰の影響大)
(6) 労働時間	146.2時間(時間/月、出勤日数19日) パートタイマーが増加し、比率では28%を占め、労働時間は減少気味です。
(7) 完全失業率	5.1%(2010年平均) 前年と同じで過去3番目に悪い水準、なお12月は4.9%になっており、持ち直す傾向、なお東日本大震災後は復興需要が期待され失業率は低下するでしょう。
(8) 有効求人倍率	0.52倍、改善幅は小さい。
(9) G D P	①名目480兆円、実質540兆円(2010年度) 10年前より名目で▲23兆円、実質で+37兆円、これから回復軌道に乗ると期待されています。 ②中国が日本を約4,000億ドル上回ったと公表されました(ドル換算で中国5.9兆ドル、日本は5.5兆ドル)。 ③IMFによる1人当たりのGDPは米国47,284ドル、日本42,820ドル、中国は4,382ドルで日本の約10分の1です。
(10) 実質成長率	①4.0%(前年は▲6.3%) ②円高も絡み輸出産業の苦戦(例:造船所は韓国に成約を取られ閑古鳥が鳴いている状況)を強いられています。 ③円高の1ドル76円台はドル買いをする水